

小学生と大学生一緒に生活

中央公民館で通学合宿

9月19日(水)～22日(土)にかけて、通学しながら子どもたちが自分の力で生活する「通学合宿」が行われ、町内の小学校から13人が参加しました。



この合宿は、親元を離れて自活する力を養うことや、子どもたち同士の友情を育むために毎年行われているもので、小学校5・6年生を対象に、中央公民館で参加者が一緒に生活するというものです。子どもたちは19日、学校の授業が終わったあと、期待と不安を胸に会場へ集合しました。

合宿中は、自分たちの寝具の準備、片付けはもちろん、買い物、食事の準備・後片付け、入浴といった生活面すべてのことを自分でこなします。2班に分かれたグループには、それぞれ大学生のリーダーがおり、親代わりとなつて子どもたちを手伝いますが、手を差しのべることもあれば、叱ることもあり、親子のような生活を送っていたのが印象的でした。

22日のお昼に解散しましたが、合宿した子どもたち、一緒に寝食を共にした大学生たち双方が、別れを惜しんでいました。

インタビュー 「合宿支えた3人の町出身大学生」

この合宿には、5人の弘前大学生がボランティアとして参加しています。このうち3人は町出身の学生で、3年間合宿の運営に貢献しました。彼らがどんな気持ちでこの合宿に協力することになったか、話を聞きました。



【左から青山紫穂さん、成田愛さん、前田貴哉さん】

——3年間参加してみてもうでした？

前田 指導する立場になるので、難しさを感じました。

——どうして合宿に協力しようと思った？

全員 地元だから子どもたちとふれあってみたかったというのがあります。楽しそうだし、面白そうだったので一番かな。

——その面白さとは？

青山 合宿が終わる頃になると、グループの子どもたちが不思議とまとまるんですよ。その成長を見る過程

が、家族みたいで充実感があります。

——一番の思い出は？

前田 子どもたちによく追いかけて回されたな！

青山 前田はイケメンだから、女の子にばつか追いかけて回されてた。

成田 そうそう(笑)

——一緒についてきてくれたほかの仲間へは？

青山 中泊を好きになってくれてありがとう！

成田 学部が違うけど、ここに来ると会える。それがうれしかったです。

前田 目の届かないところを助けてもらった。本当に感謝しています。

——皆さんは社会人になりますか？

前田 理学療法士になる予定ですが、職業柄、けがの子どもと接する機会が多いので、今回の経験を活かしたいです。

成田 社会人になって仕事をしているとき、ここで過ごした経験は大きな励みになると思います。

青山 教育分野に進みたいので、この経験を軸に、困ったときはこの合宿に立ち戻って、社会でがんばっていきたいです。

田んぼ・川の機能に興味津々

薄市小が地域のフィールドで学習



【水と大地の探検隊(9月3日)】



【水路の生き物調査(9月6日)】

田んぼに水を引く機能や川の生育環境を調査する学習が、9月3日(月)と6日(木)の2日間行われ、薄市小5年生の10人が、十三湖土地改良区や高根地区環境公共推進協議会の説明を受けながら学びました。

3日は、十三湖土地改良区の江良総括課長が主に説明し、「水と大地の探検隊」と称した現地学習を実施。岩木川芦野頭首工の取水機能見学や、全国でもあまりない芦野地区水田のパイプライン機能、若宮地区機場の見学といったことが行われました。特に子どもた

ちは、機場の中央管理センターが、ポンプの強制排水で洪水対策も行っていることを知り驚いていたよう。メモを取りながら、説明を熱心に聞いていました。

6日(木)は、高根地区環境公共推進協議会の工藤さんに話を聞きながら、薄市川や今泉川、中里高校そば水路の3か所で、水質・生き物調査を実施。PHやCOD、DOといった項目を使って水質を調べたほか、あらかじめ設置して置いたかごの中を見たり、網ですくったりなどして、どんな生き物が生息しているのかを調査しました。

水路には10種類くらいの生物がいて、予想以上の多さに驚いていました。

調査をした海江田斗麻くんは「水路は、見た目が濁っているも水質が意外によいことが分かった。モズクがニが7匹もいてびっくりした」と感想を話していました。

青い森信金旧中里支店を無償譲渡

役場で贈呈式

平成22年11月に、金木支店との統合で空き店舗となっていた「青い森信用金庫」の旧中里支店を、このたび町が無償で譲り受けることになり、9月25日(火)町長室で贈呈式が行われました。

この式に参加したのは、町長はじめ町側から4人と、青い森信用金庫から村館理事長をはじめとする4人の、合わせて8人が参加。町長に対し、譲渡の目録がしっかりと手渡され、両者がにこやかに談笑しました。

町では、この店舗を町商工会に貸し付け、老朽化が進む町商工会館の移転先として活用される予定です。野上祐一商工会長は「今度の移転先は、町のメインストリート。ここに居を構えることで、商工業者、町の活性化につながれば」と期待感を示していました。

